

第 34 回 由良川水系・二級水系河川整備計画検討委員会

議事概要

日時：令和 7 年 3 月 26 日（水） 14：00～16：30

場所：綾部市ものづくり交流館 2F 多目的ホール

■議題

第 1 部 由良川下流圏域河川整備計画の変更（犀川）

第 2 部 二級河川竹野川水系河川整備計画の進捗点検

■議事内容（第 1 部）

【委員】

令和 5 年 8 月豪雨の確率年ほどの程度か。

【京都府】

概ね 10 年に 1 度の大雨と考えている。犀川は概ね 10 年に 1 度の確率規模で改修がされているが、一部断面が確保されていない箇所があり、その部分において今回被害が発生した。

【委員】

犀川全体の整備を進めるのか、現地視察した 2 箇所（物部地区、志賀郷地区）を重点的に整備するのか、整備箇所を教えてください。

【京都府】

2 箇所以外の整備も含め、全体として整備の必要のある箇所については、次回の委員会において提示する予定である。

【委員】

地域住民の犀川の利用状況や関わり方は。

【京都府】

物部地区を含む改修済み区間は、五分勾配の護岸が整備されており、川の中の利用はない。下流部分については、一部緩傾斜護岸となっており、自然の一部として川や自然に親しむような利用形態であると把握している。

【委員】

流域治水の考え方を踏まえると、まちづくりとの連携は欠かせないが、整備計画の変更においてはどのように考えていく予定か。

【京都府】

河川整備計画においては、一定規模の目標に対する河川整備の計画を立てるが、目標以上の洪水の発生も考えられる。流域治水の考え方についても、検討材料に入れて考えていきたい。

【委員】

現地視察において監視カメラを確認したが、視察した箇所だけではなく他にもあるのか。どのような基準で設置しているのか。

監視カメラ等の設置は、防災の観点から非常に重要であるが、より活用してもらうために、ホームページのアクセス解析等の調査も有効である。

【京都府】

現地視察した箇所だけではなく、下流部にも1箇所設置している。水防警報河川等において、地域の主要箇所を選定して設置していると聞いている。

アクセス解析等について、他部局と連携しながら、必要に応じて検討していきたい。

【委員】

川に近いところに宅地がある流域であるという印象である。まず下流から整備するという考え方もあるが、家屋の状況を考慮に入れて計画をしていただきたい。

【京都府】

工事の優先順位は、家屋のある箇所を優先することや、下流に影響が無いようにすることを考慮して進めていきたい。

【委員】

犀川の志賀郷地区のような内水被害に対しても、今回の計画で検討していく予定か。

【京都府】

志賀郷地区では、犀川の水位が高くなったことにより支川の排水ができずに氾濫が起こったと考えており、まずは犀川の改修を進めるとともに、内水処理についても綾部市と連携しながら検討していきたい。

【委員】

固定堰によって、勾配が緩くなっている箇所がある。堰の部分を掘削するような考えはあるか。

【京都府】

固定堰等により断面が確保できない場合には、利水関係者と協議する必要があると考えている。

【委員】

固定堰は米づくりに欠かせない施設の一つであり、改修する場合は水利権上の調整事項があるため大変だと思うが、これを機に検討いただきたいと思う。

【委員】

固定堰を可動堰に改築する取り組みもあるが、洪水時に正確に運用する必要がある。検討いただければと思う。

【委員】

監視カメラは、目で見れば危険だとすぐわかるため、流木の感知システムとしても非常に強力なツールである。

【委員】

河川環境について、魚類に関しては、最新のレッドリスト、レッドデータブックが更新されたばかりである。また、「きょうと生物多様性センター」が近年設立されたため、連携していただきたいと思う。

【京都府】

例えば絶滅危惧種等についても考慮するなど、環境部局とも連携を取りながら進めていきたい。

■議事内容（第2部）

【委員】

霞堤を保全しながら浸水被害を減らすという説明があったが、霞堤はどこにあるのか。矢田橋付近がいつも浸水するのは霞堤が原因なのか。

【京都府】

霞堤は下流から中上流部にかけて両岸に10箇所程度ある。矢田橋付近の浸水原因は河道断面が小さいためと考えている。

【委員】

事業を評価する際にB/Cがいくら以上あれば良いといった基準はあるのか。

【京都府】

費用よりも便益が上回れば、投資した以上のものが社会的に戻ってくると考える。費用だけで事業を評価することではないが、投資額が社会的に戻ってくることは重要なことと考えている。B/Cはあくまで指標の一つと捉えている。

【委員】

前回よりも便益が増えているのはなぜか。

【京都府】

資産単価や資産数の見直しの他、治水経済調査マニュアルの改訂により、公共土木施設等被害の算出方法が変わったことが一番の要因と分析している。

【委員】

総便益の変化について理解はするが、整備計画策定当時と比べて金額差が大きいので、もう少し丁寧な説明にすべきではないか。

【京都府】

マニュアルの改訂内容の例として、公共土木等施設の被害額算定で、農地と農業用施設を他の土木施設等と分けて考えるようになったことがある。住宅地が多い地域だと被害額はそれほど変わらないが、農地等が多い地域だと影響が大きくなる傾向がある。竹野川水系は田畑や農地が多い地域であり金額が大きくなっている。今後はその辺りも分かり易く整理していきたい。

【委員】

B/Cは他の河川の整備計画でも算出しているのか。算出している場合、他の河川と比べて竹野川のB/Cの値はどうか。

【京都府】

B/Cは他の河川でも算出している。数値はまちまちであり10を超える河川もある。京都府の河川はほとんどが2以上である。

【委員】

霞堤部の事業効果について、浸水範囲だけ見ると事業実施前後で範囲がそれほど変わっていないように見え、効果がわかりにくい。事業によって床上浸水が床下浸水となった等わかりやすく示す方がよい。

【京都府】

今後、検討していきたい。

【委員】

豊栄小学校の辺りは霞堤があり、確かに浸水するエリアになっていた。地元の人はどこが浸水するところかはよく知っていると思う。霞堤の効果が出ているのを感じる。

【委員】

工事が完了した箇所では補修や改修が必要になった箇所はあるか。

【京都府】

特にない。

【委員】

福知山市でミズベリングという国土交通省の交流イベントがあったが、そのようなイベントの計画はあるか。

【京都府】

弥栄町で水辺まつり、峰山町で花火大会を開催するなど水辺を利用したイベントを実施している。

【委員】

鳥取川の分水路について、合流後の流下能力は問題ないのか。分水路部の川幅が狭かったということか。

【京都府】

分水路部は人家連担地であり河道拡幅できなかつたため分水路にしている。合流後は河道拡幅して流下断面を確保している。

【委員】

別の地域で南海トラフ対策として、高齢者の避難を支援する人が誰を連れて逃げるかなどを決めている地域があったが、竹野川流域でも同様の取り組みを行っているのか。

【京都府】

地域の防災対策として自主防災組織を形成して地域の防災マップをもとに避難方法の勉強会や要配慮者への支援などを行っている。

【委員】

工事の入札不調によって工事が進まないことはあったか。

【京都府】

特にない。災害復旧などで案件の多い時期は不落もあったが一時的であった。

【委員】

改修方法の代替案を比較しているが、別の場で専門家による確認はしているか。

【京都府】

特にそのような場は設けていない。京都府の中で一般的な方法で 3 案比較して検討している。